

実践校に関する事項		
学校区分	学校名	学校長名
中学校・高等学校	近畿大学附属和歌山高等学校・中学校	川合 廣征
学校所在地		
(〒640 - 8471) 和歌山県和歌山市善明寺516 tel 073 (452) 1161 fax 073 (451) 0394		
担当者名		役職名・担当教科
福永 康幸 / 中野 仁惇 / 岡 ひなた		教諭・英語科 / 地歴公民科
[学校の概要]		
<p>本校は、1983年（昭和58年）4月1日に開校し、県下における進学校の一つとして発展を続けている。校訓を「人に愛される人・信頼される人・尊敬される人になろう」と定め、文武両道の実践を基盤に、知育・徳育・体育の調和的な育成に努めている。</p> <p>また、中学校・高等学校の両課程を併設し、現在の生徒数は約1,600名を数え、県内でも最大規模の学校である。</p> <p>令和7年度からは、特色ある教育の実現を目的として学校改革に着手した。その一環として、放課後の時間を有効に活用する新たな教育活動「近活time」を導入した。</p> <p>「近活time」では、アダプティブ・ラーニング（学習者一人ひとりの理解度に応じて教材や課題を最適化する学習方式）を活用した個別補習の充実、生徒が主体的に企画・運営するサークル活動の推進、本校教員による専門性を生かした教養講座の開設、さらに外部講師を招いた特別講演の実施など、放課後を学びと成長の場として多角的に活用する取り組みを展開している。</p> <p>これらの取組を通じて、生徒一人ひとりの学力向上と主体性の育成を図り、地域社会に貢献し得る人材の育成を目指している。</p>		
研究実践に関する事項		
対象者児童・生徒	学習支援者等（延人数）	主な活動場所
学年 中学1年～高校2年生 39名	3名 職員3名	本校（HR教室）世界遺産熊野本宮館
実践研究テーマ		
世界遺産を知る～世界遺産保全活動～		
実践教科等名	単元名	
近活time 世界遺産講座	世界遺産を知る	
[キーワード] ボランティア活動、環境保全、世界遺産保全活動体験、情報活用能力		
[単元目標]		
<p>ふるさとの自然や歴史、文化に関心を持ち、それらを大切にすることを育むとともに、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」についての学習や現地での体験活動を通して、その価値や保全の重要性を実感しながら理解する。さらに、地域の魅力を再発見し、ふるさとへの誇りを高めるとともに、地域や世界とのつながりを考え、自ら行動しようとする態度を養うことを目指す。</p>		
[学習に当たった全学習時間数（世界遺産学習に関わる時間数及び 学習活動名／教材名）]		
全体9時間（「事前講義1時間・道普請1時間・参詣道ウォーク（三軒茶屋～本宮大社）2時間 成果物作成 5時間）		
[地域および文化財管理者等との連携の実施状況]		
<p>和歌山県世界遺産センターの方にお越しいただき、事前学習を実施。</p> <p>世界遺産ウォーク当日も、世界遺産マスターの方々にご同行いただき、貴重なお話や多くの知見を学ぶ機会を得た。</p>		

実践校に関する事項

〔単元指導計画概要〕

	主な学習活動	学習への支援	評価方法等
1	事前活動	世界遺産センターの方による事前学習	アンケート等
2	現地活動	世界遺産熊野本宮館での見学 世界遺産マイスターの方々にご同行いただき、 貴重なお話や多くの知見を学ぶ機会を得た。	レポート
3	ICTを活用し、まとめる	Canva使用および感想文としてまとめる	レポート
4			
5			

〔単元学習の成果と課題〕

この次世代育成事業「世界遺産講座」を通して、生徒たちは、世界遺産への関心を高め、地域の文化的価値を再認識するなどの成果が見られたという声が多く聞かれた。

一方で課題としては、総合的な学習（中学校）や総合的な探究（高等学校）のカリキュラム内で実施できていれば、世界遺産に関する知識の深化や探究的な学びの展開がより可能であったと考えられる。今回は本校独自の「近活Time」の時間内に限られていたため、事前講義の前段階で十分な準備ができなかった点が課題として挙げられる。

〔世界遺産学習の効果〕

この次世代育成事業「世界遺産講座」では、世界遺産マイスターによる案内のもと、熊野古道の道普請や参詣道を実際に歩きながら学ぶ活動を行った。生徒たちは、地域の人々の努力によって守られてきた文化的景観の価値を体感的に理解し、世界遺産としての熊野古道の意義をより深く捉えることができた。特に、現地での説明を通して「道を守ることが信仰や暮らしと結びついている」ことを実感し、学習への関心と理解が高まった点が大きな成果である。一方で、限られた「近活Time」での実施であったため、事前の調べ学習や振り返りの時間を十分に確保できず、学びをより探究的な形に発展させることが課題として挙げられる。今後は、総合的な学習や探究の時間と連携させ、地域学習と世界遺産教育を一体的に展開していくことが期待される。

〔世界遺産学習の今後の方向性及び改善点について〕

今後の世界遺産学習の方向性としては、地域の遺産にとどまらず、広い視野で世界遺産全体を捉える学びが求められる。これまでの学習では、熊野古道など地元の世界遺産を中心に学び、ふるさとへの誇りや保全意識を高めるという成果があった。しかし、その一方で、身近な遺産に焦点を当てすぎるあまり、世界遺産全体が持つ「人類共通の宝」という本質を見失うおそれがある。まさに「木を見て森を見ず」とならないよう、地元の学びを出発点に、他地域・他国の遺産と比較しながら考える視点を養うことが重要である。

たとえば、熊野古道とスペインのサンティアゴ巡礼路を比較し、「信仰の道」という共通点から文化的背景の違いを考察することで、世界遺産の多様性や普遍的価値への理解を深めることができる。また、観光や開発による課題、環境保全と地域振興の両立といった現代的問題にも目を向け、持続可能な観点から世界遺産を考えることも高校生にふさわしい探究の方向である。

今後は、現地学習とオンライン交流、調査や発表などを組み合わせ、自ら問いを立て、比較・考察する主体的な学びに発展させることが改善の鍵となるだろう。そうした学びを通して、生徒一人一人が世界の中の一員として遺産を守り継ぐ意識を育むことが期待される。

蘇りの地 紀伊山地の霊場と参詣道

今回の世界遺産講座で私は初めて、世界遺産に登録されている「紀伊山地の霊場と参詣道」を訪れました。以前から地域学習で学ぶ機会があり、また先日万博で開催された「和歌山DAY」で紹介されていたことから紀伊山地の霊場と参詣道について興味を持ち、今回の活動に参加しました。当日、現地を歩いている時、空気がとても澄んでいて現世から少し離れたところにいるような感じがして、まさにここは蘇りの地なのだと思いました。また今回の活動で印象に残っているのは道普請の活動です。熊野古道は人々に守られて今の姿を残しており、これからも守るための活動を続けていかなければならないと感じたからです。私は今回の活動で世界遺産の紀伊山地の霊場と参詣道を未来へと繋げていく活動の一部に参加できたことを誇りに思います。

世界遺産の登録について

一度世界遺産に登録されても、人の手が加わったりして見た目が変わったりすると世界遺産の登録が取消されてしまうという話が意外でした。戦争が原因で世界遺産登録から外れてしまうのはもったいないなと思いました。世界遺産に登録されている場所は毎年増えているので1000年後くらいには自分達の住んでいる町も登録される可能性が0ではないと思いました。参詣道が世界遺産として登録されているのは世界に2つしかないのが貴重な場所だと分かりました。初めは道普請活動のことも知らなかったけど思っていたより楽しかったのに加えて保全活動も出来たので貴重な体験ができて良かったです。ありがとうございました。

昔の人はすごかった

学校で聞いた講演について、世界遺産がどうやって誕生したのかがわかって面白かったです。人々の協力のおかげで今でもあの神殿が残っているのだと思うととても団結力やそれをやろうと思ったところに凄さを感じました。スペインの世界遺産のことも関連していて、少し前に本で知っていたのですがより印象に残ったと思います。熊野古道ですが、那智の滝のある熊野那智大社しか行ったことがなかったのでも2つの神社があると知り驚きました。

校外学習の感想は、鳥居の大きさに度肝を抜かれました。

道普請活動では、外国の方とも出会えていい経験になりました。熊野古道を歩いた時は「こんな危険な道を昔の人は大勢歩いていたんだなあ。」と思い、熊野詣が受け継がれてきたことを感じられました。

想いの継続の難しさ

今回の講義で、熊野古道は昔の人たちが神様にお祈りするために歩いた道だと知りました。昔の人なら当たり前かもしれませんが、山の中を何日もかけて歩くのはとても大変そうだし、虫が多そうですごいと思いました。昔の人は自然を大切にしている、神様は自然の中にいると考えていたことが印象に残りました。また最近ではスタンプラリーに夢中になってあまり熊野古道の歴史について考えず歩く人が多いことを聞いて、たしかに自分でもスタンプラリーにひっぱられてしまうかもと思い、今までは歩くことに必死でしたが、昔何があってどういう思いで歩いていたのかを想像したりしながら機会があれば歩いてみようと思いました。また1番印象に残ったのは世界には戦争などで大切な世界遺産が壊されてしまっているということが起きているということです。昔の人が長い時間をかけてつくったものが一瞬にして壊されるのを見てすごく衝撃的でした。またダムを作るときに世界遺産を守るためにいくつかその建物を分けて地道に移動させ、移動先でくっつけて残すというやり方を見ました。仕方がないことですが世界遺産を守れたけど世界遺産を今の人たちが手を加えなければ守れないのが少し複雑でした。

生きた遺産

この度、熊野古道、中辺路の道普請に参加させていただきました。古道の維持管理に貢献できる貴重な機会に恵まれたことを心より感謝しております。今回の主な作業は、道の崩壊を防ぐための土運びでした。整備が必要な現場までは、長い坂道が続いており、袋に土を詰めては、その坂道を何度も往復するという、非常に体力を使う作業でした。袋いっぱい詰めた土の重さは想像以上で、上り坂では息切れと疲労が全身を襲いました。しかし、他の参加者の皆さんと「もう少しだ」「頑張ろう」と声を掛け合い、一丸となって作業に取り組むうちに、個人の疲れは、皆で成し遂げるという一体感へととなりました。皆が協力し、効率よく作業を進めた結果、予定よりも早く終わることができ、大きな達成感に包まれました。この道が、多くの人々の汗と力によって支えられていることを、身をもって知る経験となりました。作業を終えた後、私はガイドの方に案内していただき、整備された古道を歩く機会を得ました。道普請で汗を流したことを思いながら道を歩くと、ただ景色を眺めていたときは道の見え方が全く違いました。自分たちが運んだ土や、直した場所の石一つ一つに重みを感じ、「道」そのものが生きているように感じられました。さらに、ガイドさんの詳しい説明により、なぜそのように作られたのか、この急な坂をどのような人々がどんな思いで歩いたのか、といった歴史的背景を深く学ぶことができました。ただの風景として見ていた道が、歴史的な意味を持つ「生きた遺産」として立ち現れたのです。今回の道普請とガイドを通じて、熊野古道が持つ歴史的な価値だけでなく、守り、未来へ受け継いでいくことの重要性を強く認識しました。この素晴らしい歴史と自然の道を次世代に引き継ぐためにも、今後もこのような活動に積極的に参加し、貢献していきたいと思えます。

伝統と文化を守る

まず初めに感じたことは、初めて来た場所なのにどこか和歌山を感じられるなということです。また、熊野古道では同じような道を進んでいるのに少し進んだだけで景色が全然違うように見えて、素敵だなと思いました。いちばんきつかったことは熊野古道を登ることでした。足場があまり良くなくて、木の根っこが表面に出ていたり、ボコボコした岩を踏んでいたり、急な上り坂、下り坂、階段を歩いたり、陸上が現役で体力があるはずの自分でもとても疲れました。だから昔の人たちが何百回もこの道を参拝していたと思うと「本当にすごいことだったんだな。」と思いました。ご飯を食べている時に話しかけてくれたアキラさんという81歳のおじいさんは、脳梗塞になって5メートルしか歩けなかったのに、6年間かけて20メートル歩けるようになり、今ではこの熊野古道を2時間かけて登れるようになったそうです。こんな体験を聞いて、熊野古道には「いろんな過去とか思い出とかがあるのだな。」と痛感しました。また、世界遺産として登録されている神社やお寺、古い町並みなどでは、そこに長く受け継がれてきた伝統や文化を守ることがとても大切だとされています。その土地に暮らす人々も、昔から伝わる建物の形や使われている材料、そして行事や風習を大切にしながら、次の世代へと受け継ごうと努力しています。しかし、長い年月のあいだに建物や石垣、木材などが風雨によって傷んでしまうこともあり、保存のために補修や改修を行わなければならない場合もあります。ところが、その補修の方法や使う材料が、もともとのものと違ってしまうと、「本来の姿が失われた」とみなされてしまうことがあるのです。そのため、世界遺産委員会が現地を視察したときに、修復のやり方が適切でないと判断されると、世界遺産の価値が下がったと見なされ、最悪の場合には世界遺産の登録を取り消されてしまうこともあるそうです。このように、伝統や文化を守りながら、同時に建物を維持していくことはとても難しく、地域の人々や専門家たちは、そのバランスを取るために日々努力を続けているのだと知り、これからも、もっと世界遺産や歴史について知っていきたいと思いました。

2025

11月15日

世界遺産講座

Topics

活動内容

まずは講座を受講しました。講座では世界遺産ができた理由や世界の世界遺産、日本の世界遺産、紀伊山地の霊場について学びました。その後実際に世界遺産センターを見学し、熊野古道に行つて道の修繕をして、本宮大社に歩いて行きました。とても疲れましたが有意義な時間でした。



学んだこと



- 紀伊山地は仏教と神道と修験の3つの宗教が混ざっているのが珍しい世界遺産になった。
- 道が整備されている世界遺産は2つだけ。
- 天照大神、伊弉諾大神、須佐男などが祀られている。和歌山とゆかりがある。和歌山まで多いから道が雨で濡れてしまうので修繕が必要。

今後に向けて

- 道を修繕するだけでも大変だから道を作った人に感謝する。
- 世界遺産の素晴らしさ、修繕の大切さをたくさんの人に伝える。
- 後世の人のために世界遺産を守る。



世界遺産講座 紀伊山地の霊場と参詣道

活動内容 (授業)

最初の授業の講座で紀伊山地の霊場と参詣道が世界遺産の中でも2つしかない「道」の世界遺産だと知って驚きました。また同じ道の世界遺産であるサンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路が熊野古道の一部と友好提携を結んでるということもまた驚きました。授業を通して多くの「驚き」と出会い、とても充実した授業でした。

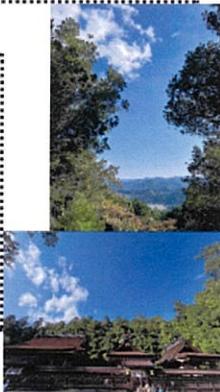
活動内容 (道普請活動)

始めの方は初めての道普請活動だったので緊張していました。しかし、いざ道普請活動してみると色々な人と交流ができた。自分たちの手で道を直してるといふ達成感などがありとても良かったです。そして、熊野古道を歩き本宮大社まで向かってる際に時代によって道の感じが違うということを知って昔からここは多くの人に使われていたと知れてこれもまた良かったです。

活動から学んだ事と今後に向けて

活動から学んだ事は昔の人たちが熊野古道を残したことに今にまで残りそれ自分たちの手で直し、その道がこの先色々な人が使い後世に残っていくと考えるととても感慨深く感じました。そして重要なものを守り、残していくことの大切さをこの活動で学びました。

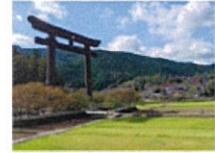
また今後に向けては今回の道普請活動のような自然保護活動が開催されていたりしたら積極的に参加していこうと思います。



紀伊山地の霊場と参詣道



世界遺産講座では霊場と参詣道についてや、世界中にある歴史的建造物の話などを聴かせてもらいました。



ボランティア活動では、参詣道の修復をしました。昔ながらの方法で今までやってきた理由などを教えてもらい、とても興味深かったです。

実際に歩いた際には、ガイドの方がどうしてこの地が参詣道になったのかや、当時どのようにして使われて、どのような目的があったのかなど興味深いお話がたくさん聴けました。

熊野本宮大社旧社地では、明治ごろに起きた大水害で社殿など多くの建物が流されてしまい、現在では水害を受けなかった4つの建物が水害を受けにくい高台へと移されたそうです。

今回のことを振り返り、改めて霊場や参詣道だけではなく、様々な歴史的背景などを実際の所へ行きながら学べる良い機会だなと思いました。今後は自分なりに進む所にも足を運んでいき、そこでも歴史や実際に起こった出来事など、現場に行かないと分からないようなことを学びたいと思います。

WORLD HERITAGE SITE

世界遺産とは？

世界の人々にとって共通するかけがえのない宝物で、未来の人々に引き継いでいかなければならない貴重な文化財や素晴らしい自然などのこと。

- 文化遺産** 顕著な普遍的価値を持つ遺跡や建造物群、文化的景観など
- 自然遺産** 顕著な普遍的価値を持つ地形、動植物、自然景観を持つ地域など
- 複合遺産** 文化遺産と自然遺産の両方の価値を兼ね備えているもの



紀伊山地の霊場と参詣道

2004年の七夕に、中国の蘇州で開催されていた第28回世界遺産委員会が世界遺産への登録が決定。日本で初めて文化的景観が評価された世界遺産で、文化遺産として登録されており、現在も国内外から数多くの観光客が訪れる場所になっている。

道普請活動

土嚢袋に土を入れて運び、ならしめ固めることによって、参詣道を歩きやすくすると同時に、景観を保つ活動。高齢化で担い手が減少しており、最近では企業や学校の団体向けに道普請を受け入れるプロジェクトを開始している。



世界遺産の存在

- ✗ただそこにある
- 連鎖的に愛され保護された+平和の象徴



For the future...

1. 次世代を担う若者に世界遺産の存在意義を伝え、大切にしようという思いを持たせる
2. 保全活動の重要性を広める

和歌山県田辺市と スペイン国ガリシア州サンティアゴ・デ・コンポステーラ市の関係

紀伊山地の霊場と参詣道

標高1000メートル級の山々が連なる紀伊山地は、太古から自然を神格化して崇める信仰が盛んな地域で、古代の都がおかれた奈良盆地近辺の人々の信仰を集めていた。6世紀に大陸から日本に仏教が伝わってからは、7世紀後半に山岳修行の地となってい、9世紀に伝わった真言密教は高野山、10世紀から11世紀にかけて盛んになった修験道は吉野・大峰や熊野三山が主な修行の場となった。特に熊野三山は神道の信仰の場でもあった。高野山、吉野・大峰、熊野三山は三大霊場として、神仏習合の思想によって密接なかかわりを持ち、各霊場へと結ばれる参詣道として、整備されていった。

2つの世界遺産の共通点は？
数百kmにも及ぶ「巡礼道」が世界遺産に登録されているのは世界でこの二例だけ

世界で二例しかない「巡礼道」の世界遺産を有する和歌山県田辺市とスペイン国ガリシア州サンティアゴ・デ・コンポステーラ市は、日西交流400周年記念及び「紀伊山地の霊場と参詣道」の世界遺産登録10周年を契機に、両市が連携して観光交流事業に取り組むため、観光交流協定を締結することとなった。



サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路

ガリシア州サンティアゴ・デ・コンポステーラへの巡礼道で、主にフランス各地からピレネー山脈を経由し、スペイン北部を通る道を目指し、1000年以上の歴史を持つ聖地への道は、今も年間約10万人が訪れます。

サンティアゴ・デ・コンポステーラには、聖ヤコブの遺骸が祭られているため、古くからローマ、エルサレムと並んでキリスト教の聖地として巡礼者が絶えません。

徒歩によるスペイン横断は、イベリア半島内でもおよそ800kmの道程であり、長い巡礼を続けることは、人々にとって信仰と向き合う貴重な時間になっている。

世界遺産

～紀伊山地の霊場と参詣道に注目して～

和歌山にもある「世界遺産」。一体「世界遺産」とは何のためにあるものなのか。そして、これはどんな影響をその地域に与えているのか。登録を維持していくことの難しさとはなにか。インターネットや実際に「世界遺産」を訪れることで探究しました。

「世界遺産」とは？

1972年にユネスコの総会で採択された世界遺産条約にもとづいて、世界遺産リストに登録されたすぐれた文化財や自然環境のこと。

守る義務がある！

「世界遺産」の3つの種類

文化遺産

建造物群や遺跡文化景観など人間が生み出したもの

自然遺産

地球が独自に生成した自然、風景、自然物など

複合遺産

文化遺産と自然遺産の両方の価値を兼ね備えているもの

紀伊山地の霊場と参詣道

熊野古道は、熊野三山のご利益を願う人々の足跡が残る祈りの道です。平成16年に、熊野三山を含む「紀伊山地の霊場と参詣道」がユネスコの世界文化遺産に登録されています。

世界遺産登録当初…

熊野古道の世界遺産への登録が決まると、大手旅行会社が組んだツアーで、連日40人乗りの大型バスが何台も来るようになったそう。観光のインフラが乏しかった南紀エリアに押し寄せた観光客に、地元は疲弊し、大量のゴミにも悩まされた。

対応策

昔ながらの日本の聖地であり、神秘的な日本の精神文化を感じられるのが熊野古道。日本の田舎を歩き、オーセンティックな日本の生活を味わう旅が売りました。

結果

アウトドア好きで、大都市や有名な観光地ではない場所を歩きたがる欧米の個人客がターゲットになった。実際に日本や中国の観光客はバスなどで熊野三山を回る人が多く、徒歩で熊野古道を巡る人は少ないそう。実際、歩いてみると、中辺路で出会う人のほとんどは欧米やオーストラリアの旅行者客であった。

道普請活動 に参加してみて

質問

みなさんは「紀伊山地の霊場と参詣道」で行われている道普請活動を知っていますか？

私は知らなかった！

そもそも

紀伊山地の霊場と参詣道 とは…？

和歌山県・奈良県・三重県にまたがる3つの霊場と参詣道を登録対象とする世界遺産。2004年7月7日に登録された。日本の世界遺産で初めて道が登録された。文化遺産の 카테고리 のなかでも、人間の営みと自然の特異な結びつきを示す名勝・庭園・遺跡などを意味する文化的景観にも選ばれた。

道普請活動



道普請とは、土砂の流出や傷みを修復すること。最初に聞いたときは正直、「車など機械で土を運べばいいじゃん。」と思っていました。でも実際に現地に来て初めて機械類が入ることのできない道幅を感じました。

私たちが運んだ土の量は写真のように大人の男の人が横に立っても、その量の多さがわかるほどでした。この土の中に外来種の植物が入らないように十分注意しているそうです。

一生懸命に土を運んでいると、たくさんの観光客の人とすれ違いました。みなさん「こんにちは」「ありがとう」「おつかれさまです」と声をかけてくれました。なんだか心がほわほわして、誰かのためになっていることにやりがいを感じました。

わかったこと

文化財なので昔と同じ方法で修復しなければならないそうです。世界遺産に登録されているすべての道を観光客のために修復することがどれだけ難しいことがわかりました。熊野古道が信仰の道として今も存在するのは、歩くことが信仰そのものと考えられたと同時に、千年以上も前から人々が守り修復してきたからなんだとしみじみと感じました。

活動報告書

活動内容：世界遺産講座・参詣道ウォーク・参詣道保全活動（道普請）

1. 上記の活動を通じて学んだことを述べなさい。

(横書き、300字以上400字以内)

熊野古道の道の石畳みの部分が滑って歩きにくいと思っていたら、昔の人はわざわざ履いていたので現代の人と違って歩きやすかったことが分かりました。平安時代に仏と神は本来同一であるとする「神仏習合」が熊野まで伝わってきたので、お寺なのに鳥居があったり、仏が人々を救うための神様の仮の姿として熊野権現が現れました。また、熊野古道は高低差が激しいなど険しい山道であるので山岳信仰と結びついた修験道の場所としても有名で心身を鍛えることが出来ます。熊野参詣道の内の一つのルートである中辺路にある三軒茶屋跡からも多くの人々がこの道を利用し、賑わっていたことが分かります。しかし、道の途中にあるお地蔵さんからは急な道であるので誰もが目的地まで辿り着ける訳ではなかったことがうかがえます。

2. 上記の活動を今後の勉学と将来にどう活かしたいかを述べなさい。

(横書き、300字以上400字以内)

日本では神仏習合など宗教が混じり合っている例が平安時代から長く続いています。海外の人たちから見るととても珍しいことなのでこれからもこの習わしを広めていくと同時に平安時代から現代までの間に日本の宗教がどのように変化して、どんな人を対象として開かれたのかなどを学んでいきたいです。また、道普請活動は将来もずっと続けなければならないことで終わりが無いけれどコンクリートで固めたりするのではなく人の手で管理することが重要なのでこの活動を多くの人に継承していきたいです。時には昔の人の暮らしを体験することで現代の暮らしの豊かさを感じると同時に今、失われつつある侘び寂びの感性を育て、素晴らしい現代に繋いでくれたこれまでの多くの人々に感謝し、昔の人に恥じないように日々勉強を積んでいきたいです。

活動報告書

活動内容：世界遺産講座・参詣道ウォーク・参詣道保全活動（道普請）

1. 上記の活動を通じて学んだことを述べなさい。

(横書き、300字以上400字以内)

今回のボランティア活動で、道普請というものを初めて知りました。事前の講義の時向故このような活動が必要なのかという説明を受けた時正直あまり必要を実感出来ていませんでした。しかし実際に自分で見た時確かに人が歩くために砂が少なくてという印象を持ち、確かに砂が足りないという実感ができその上でとても山盛りに積まれた砂を見てこれ程の砂を使ってもやはりこのような活動は終わりが無いということとても驚きを感じました。そして砂を運ぶ際何人かの観光客に会い挨拶をしながらしっかり足を踏み締めながら上り下りしているのを見て人が安全に安心して歩く為の手伝いをしている所思えてとても嬉しい気持ちになりました。そして神社などを巡り今までどのようにその土地などを守ってきたかがよく分かりました。

2. 上記の活動を今後の勉学と将来にどう活かしたいかを述べなさい。

(横書き、300字以上400字以内)

より日本の文化に触れるのよう守ってきたのか、実際に今も行われている活動に目を向けて自分が手伝えるもの初めて手伝って行こうと思いました。そして砂を運ぶ時これはだいたい持って上り下りしなければ終わらないと思うほどの砂の量を見て覚悟をしていましたが、実際にはあまり往復しないで4回で終わりとて拍子抜け協調性をたしました。しかしあの砂はみんな少しづつ運び協力しているのを見てこれほど人の繋がりは凄いなと思いました。なので私もこのような偏見、無駄な予想を立ててうだうだするのはやめて、このように協調性を大切にしていきたいと思いました。そして気の通く異なる様な道普請はみんなが地道に努力しているのを見て、勉強でも努力を積み重ねて行きたいと思いました。

活動報告書

活動内容：世界遺産講座・参詣道ウォーク・参詣道保全活動（道普請）

1. 上記の活動を通じて学んだことを述べなさい。

(横書き、300字以上400字以内)

私は道普請活動を通じて自然や歴史、そして地域社会とのつながりを深く理解する貴重な学びを得られました。山道を整える作業は、単なる清掃や補修ではなく、古くから多くの人々が歩いてきた参詣道を未来へつなぐ重要な役割を担っているんだと思いました。こうした作業を体験することで先人たちの敬意や文化を守る意識が芽生えたように感じました。また、仲間と協力して資材を運んだり、危険がないよう声をかけたりする中で、協力する大切さや他者への配慮が自然と身についたように思います。天候が左右されやすい環境で、慎重に判断しながら動く必要があり、自分の未熟さも含め、多くの気づくことができました。作業を振り返ってみると、ただただ疲れたというよりかは心が少し豊かになったような充実感が残りました。

2. 上記の活動を今後の勉学と将来にどう活かしたいかを述べなさい。

(横書き、300字以上400字以内)

今回の道普請活動を通して、学びは教室の外にもたくさんあるということ強く感じました。自然の中で作業することで、学校で習った地形や気候の知識が実感につながって、教科書の内容が急に身近に思えました。また、みんなで協力しながら作業する経験は、ただの手伝いではなく、将来どんな仕事についたとしても必要になる力だと気づきました。現場では、誰かが指示してくれるのを待つだけでは勤けず、自分で判断し、自分の役割を考えて行動しなければなりません。その過程で、自分の弱点や課題にも気づき、それをどう克服していくかという視点が自然と生まれました。さらに、地域のために自分が少しでも役に立てたという経験は、将来の進路を考えるうえで社会の役に立つ仕事をしたいという気持ちにつながりました。こうした体験は、勉強だけでは得られない、心の成長につながる大切な時間だったと思います。

活動報告書

活動内容：世界遺産講座・参詣道ウォーク・参詣道保全活動（道普請）

1. 上記の活動を通じて学んだことを述べなさい。

(横書き、300字以上400字以内)

世界遺産講座では、まず世界中の遺産をおおまかに学びました。有名で知っている世界遺産もあれば、知らなかったけどとても綺麗で行ってみたいと思った世界遺産もありました。また世界遺産には、文化遺産・自然遺産・複合遺産の3種類があり、この中でも特に多いのが文化遺産で日本の世界遺産も文化遺産が21件、自然遺産が5件と圧倒的に文化遺産が多いことが分かりました。また参詣道保全活動では熊野古道の中辺路という場所の道を保全したのですが、保全する場所まで土を持っていくのが結構大変で、わざわざ土にしないでいいんじゃないかと思いました。が、アスファルトにしちゃうと世界遺産として認めてもらえなくなるそうで、世界遺産を維持する大変さを知りました。参詣道ウォークでは、ガイドの方が歩きながら熊野古道を平安時代には天皇や上皇が巡礼したとか、熊野古道が浄土だと見なされていたなどの熊野古道の歴史についてたくさん学びました。

2. 上記の活動を今後の勉学と将来にどう活かしたいかを述べなさい。

(横書き、300字以上400字以内)

この活動を通して、世界遺産に興味を持っただけでなく、世界のことに興味を持ったので、もっと世界のことを知ろうと思いました。世界の地形や気候に興味があったので、実際にそこに行ってみようと思いました。私はもともと旅行に行くならヨーロッパのどこかに行きたいな、ぐらいに思っていました。ヨーロッパにはたくさん世界遺産があることを知ったのでフランスにあるモンサンミッシェルに行つて、自分の経験のひとつにしたいなと思いました。また勉強では、社会の科目選択で地理を選ぶ気はあまり無かったのですが、今回の活動で世界の地理について興味をもてたので地理を選ぶのも視野に入れようかなと思いました。地理は知識だけでなくそれを使って考えなければならぬのもっと世界のことに詳しく知って地理でその知識を使えるようになりたいです。

活動報告書

活動内容：世界遺産講座・参詣道ウォーク・参詣道保全活動（道普請）

1. 上記の活動を通じて学んだことを述べなさい。

(横書き、300字以上400字以内)

ボランティアサークルを通じて、世界遺産講座・参詣道ウォーク・参詣道保全活動（道普請）に初めて参加しました。事前学習、活動、活動報告などがあるしっかりとしたボランティアには最初こそ大変さを感じていましたが、全てを通して、事前学習済みであるからこそ道普請、参詣道ウォークなどに意味を見出せたと感じました。実際のところ世界遺産を見たのは熊野古道が初めてでした。熊野古道は略名であり、正式名称は紀伊山地の霊場と参詣道であり、大阪の淀川から三重の南郷まで続いており1000年以上も渡って使われ続けた昔の人々が熊野三山へお参りへ行く際の重要な道です。世界遺産は保全が難しく、登録された時の本来の姿のまま維持され、かつそれを将来まで維持し続けなければなりません。このようなことを事前学習しました。実際の活動では土を土籠袋に詰め参詣道を少し歩き、古来の方法で扶れた道に土を埋め立て固めて修繕しました。

2. 上記の活動を今後の勉学と将来にどう活かしたいかを述べなさい。

(横書き、300字以上400字以内)

私は将来、動物関連のお仕事に就きたいと考えています。今回の活動に通じる前から野生動物が多く住む熊野古道には行きたいと思っており、世界遺産と動物はどのように共生できているのかというのを知ることができてよかったです。熊野古道を歩く際は熊や猪など凶暴な生き物と遭遇する可能性があり、その対策として鈴やラジオの携帯、複数人での行動、決められたルートを通る、ゴミを放置しないなどできるだけ野生動物を刺激しない対策がされていました。また絶滅の恐れがある紀伊半島のツキノワグマやエゾジカなども生息しています。昨今熊の被害が全国で相次いで発生しています。原因の一つには森林破壊もあるそうです。世界遺産は古来からの形のまま残す必要があるため野生動物との共生にはうってつけだと感じました。今後野生動物と都市開発の関わり合いについて考えて行きたいです。

活動報告書

活動内容：世界遺産講座・参詣道ウォーク・参詣道保全活動（道普請）

1. 上記の活動を通じて学んだことを述べなさい。

(横書き、300字以上400字以内)

今回の世界遺産講座、参詣道ウォーク、参詣道保全活動を通して、世界遺産とはただ歴史的価値のある場所ではなく、将来に残していかなければいけないものであるということがわかった。特に熊野古道は長い歴史の中で多くの人の信仰や祈りを受け継ぎながら残されてきたものであり、自分で実際に歩いてみて、感じる事ができた。また、保全活動では現地の方々と一緒にすることによって世界遺産は登録されたら終わりではなく、日々の努力によって成り立っていることを学んだ。観光地として楽しむだけでなく、自分も実際にやってみることで良い経験となった。今回の活動を通して、歴史を知ることができただけでなく守っていくという視点が得られたことが一番の学びだった。

2. 上記の活動を今後の勉学と将来にどう活かしたいかを述べなさい。

(横書き、300字以上400字以内)

今回の活動を通して、世界遺産や文化財は、あるのが当たり前ではなく、多くの人が守り続けてきた結果残っているものだ実感した。実際に歩いたり、道を整えたりしたことで、自分もその保全に少しでも関わったという実感があり、ただの見学では味わえない学びになった。この経験をきっかけに、今後の勉強では歴史や地理を暗記するだけでなく、その背景や意味まで考えられる素敵だと思った。また、文化や観光に関わる仕事にもっと興味があり良い機会になった。今はまだはっきり決まてはいないけれど、自分の好きな地域や文化を守りながら、それを次の世代や世界に伝えるような仕事をするように頑張りたいと思った。経験をもとにして、今後の進路を考えていきたい。

活動報告書

活動内容：世界遺産講座・参詣道ウォーク・参詣道保全活動（道普請）

1. 上記の活動を通じて学んだことを述べなさい。

(横書き、300字以上400字以内)

熊野古道は和歌山や三重、奈良県にある昔の道でその道の途中途中でたくさんのお寺や神社があることを教わった。そこにはいろいろな王子の名前があることがわかった。また2004年7月7日の七夕の日に日本で初めて「道」が世界遺産になったことも教わった。1日に30〜40キロ歩くのにも驚いた。最近では海外の人もたくさんくるらしいが、熊野古道には途中途中でスタンプラリーが設置されておりそれをずっと考えながら歩く人が増え、本来の熊野古道を歩く意味をあまり考えない人が増えている。また土を引き、その上から段差の部分の木で固定してまた土を被せ、人が上から踏んでならずとすぐ綺麗で歩きやすい道になることがわかった。また世界にはたくさん世界遺産がありそれぞれいろいろな歴史があり、何か壊さなければならぬことが起こっても世界遺産をどうにか守るために現代の人が大きなクレーンなどで移動させる。しかし紛争で破壊される。

2. 上記の活動を今後の勉学と将来にどう活かしたいかを述べなさい。

(横書き、300字以上400字以内)

世界遺産といえば1番思い浮かぶ教科は地理や歴史だと思いました。先生が地理の模試の過去問で和歌山の世界遺産(多分熊野古道関係)のものが出てきたと言っていたので運が良ければ模試にも使えると思った。また小学生のころに何度も行ったことがありますがその頃はまだ頭があまり良くなく歴史を考えながら道を歩くというのはやったことがないのでまた家族と熊野古道に行くときに多分まだそんなに熊野古道について詳しく知らないであろう親や弟に熊野古道の歴史を教えてアウトプットもしながら歩いてみたいです。またこれを機に熊野古道以外の世界遺産の歴史や守る理由など普段そこまで興味がなかったのいろいろな学んでみていいなと思いました。

活動報告書

活動内容：世界遺産講座・参詣道ウォーク・参詣道保全活動（道普請）

1. 上記の活動を通じて学んだことを述べなさい。

(横書き、300字以上400字以内)

今回の世界遺産講座・参詣道ウォーク・参詣道保全活動を通して、世界遺産の価値はどのようなところから決まっているのかということや、世界遺産であり続けることの大変さについて学びました。紀伊山地の霊場と参詣道は建築物や技術の発展において重要な文化交流を示す点、文化的伝統や文明の貴重な証拠である点など、さまざまな点において価値が評価されていると知り世界遺産がいかに重要であるかを痛感させられました。特に同じ場所に3つの宗教が存在しているということは驚きでした。さらに、この紀伊山地の霊場と参詣道は文化景観が初めて認められた世界遺産であるということも事前の講義で初めて知ることができました。今回私たちが行った道普請は大変でしたが世界遺産を守る活動に参加しているという点ですごくやりがいを感じました。

2. 上記の活動を今後の勉学と将来にどう活かしたいかを述べなさい。

(横書き、300字以上400字以内)

私は今回の世界遺産講座まであまり世界遺産について知識がなく、興味を持っていませんでしたが、事前の講義で日本や世界の世界遺産について学び、世界遺産は日本の文化や歴史を伝承していく役割を担っているのだと教えていただき、守っていく必要があるものだと感じました。これからは世界遺産を守っていくためにどのようなことができるかを今回の講習で学んだ内容を活かして考えていきたいと感じました。また、今回行ったような道普請のような世界遺産の保全・保護のために私ができる活動がないかを探して、積極的に参加するとともに、友人や家族、周囲の人たちに世界遺産を守る重要性を伝えていくことができるように努めていきたいと考えました。

活動報告書

活動内容：世界遺産講座・参詣道ウォーク・参詣道保全活動（道普請）

1. 上記の活動を通じて学んだことを述べなさい。

（横書き、300字以上400字以内）

ぼくは熊野古道に観光と道普請の活動に行ってきました。熊野古道は昔からたくさんの人が通ってきた道で、世界遺産にもなっています。実際に歩いてみると、山の中に続く石の道や、古い木々が立ちならんでいて、とても神秘的でした。昔の人たちがこの道を通っておまいりに行ったと思うと、なんだかすごい気持ちになりました。道普請の活動では、こわれた石をならべたり、草をかいたりして道をきれいにしました。大変だったけど、みんなで力を合わせて道が少しずつよくなっていくのがうれしかったです。自然の中で作業するのは気持ちよくて、普段の生活ではできない体験ができました。今回の体験で、自然や昔の人の知恵を大切にすることの大事さを学びました。熊野古道を守る人がいるからこそ、今も多くの人が歩けるのだと思いました。これからも美しい自然や歴史ある場所を大切にしていきたいです。

2. 上記の活動を今後の勉学と将来にどう活かしたいかを述べなさい。

（横書き、300字以上400字以内）

熊野古道での活動を通して学んだことを、これからの生活でも活かしていきたいと思っています。道普請のときに感じた「みんなで協力することの大切さ」や「自然を大切にする気持ち」を、学校や家でも忘れずにいたいです。たとえば、学校のそうじの時間には、自分の担当場所だけでなく、まわりもきれいにしようと思います。また、熊野古道の自然を見て、ゴミひとつ落ちていないことがすばらしいと思いました。だから、これからは外で遊ぶときや出かけるときにゴミを出さないように気をつけたいです。そして、友だちにも自然や歴史を大切にすることを広げていきたいなと思います。熊野古道を守る人たちのように、ほくも自分にできることを少しずつ続けていきたいです。みんなで力を合わせれば、きれいで気持ちのよい場所を未来に残せると信じています。

活動報告書

活動内容：世界遺産講座・参詣道ウォーク・参詣道保全活動（道普請）

1. 上記の活動を通じて学んだことを述べなさい。

（横書き、300字以上400字以内）

世界遺産について学んだことで2種の世界遺産の違いや、世界のどこに多いのか、日本の世界遺産の数や順番。世界遺産そのものが古代文明の遺跡や伝統的な建物など、人類が長い時間をかけて築いてきた価値であること。参詣道を実際に歩いてその距離の長さや当時から変わらない景観や歴史的背景（主に宗教）。参詣道保全活動を通じて感じた、昔から続く地域の共通の世界遺産を保ち、観光名所を続けていく心意気。普段当たり前のように使っている道も、多くの人の努力によって支えられていることを実感し、インフラの大切さや、保全活動の意義。世界遺産は単なる観光地や昔のことがわかる場所ということだけではなく、地域の人が一丸となって価値を守り続けている、地域社会の基盤にもなっている。

2. 上記の活動を今後の勉学と将来にどう活かしたいかを述べなさい。

（横書き、300字以上400字以内）

世界遺産についての講義と道の整備の経験は、今後さまざまな場面で活かせると感じています。まず、実際に保全作業に関わったことで、文化財を守るためには日々の細かな管理や地域との協力が不可欠だと実感しました。この気づきは、観光地を訪れる際の新たな気づきの着眼点になると考えています。また、共同作業を通じて得られたチームワークは仕事をしているという達成感につながるでしょう。さらに、世界遺産の価値を理解したことで、地域の歴史や環境問題にもより関心を持つことで、より地理へのやる気が向上し、勉学のモチベーションも意識的に上がっています。ゴツゴツだった山道が平らに整備されていく様子を見て、身の回りの環境を綺麗にすることへの良さも見出せたと思います。

「活動写真」

